

令和4年8月豪雨

奥川地区を中心に大きな被害

8月3日から5日にかけて北日本を中心に発生した豪雨は、本町に大きな被害をもたらしました。特に奥川地区では、道路の決壊をはじめ、住宅への浸水、田畑の冠水や集落の孤立、断水など多くの被害が発生しました。

記録的な豪雨

県内では、前線に暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で大気の状態が非常に不安定になり、8月3日の夕方から会津北部を中心に雷を伴った非常に激しい雨が降りました。その後も断続的に雨が降り、翌4日午前5時28分に「福島県記録的短時間大雨情報」が発表されました。

町内では、同4日の明け方に1時間に約100mmの猛烈な雨を記録し、奥川・中町自治区にある国土交通省の雨量観測局では、降り始めからの雨量が29.5mmに達しました。

交通機関への影響

交通機関への影響も多数発生し、国道49号の上野尻―宝川区間が雨量超過のため一時通行止めとなったほか、県道や町道においても、土砂崩れや路肩の崩落などにより一時的に通行不可になりました。

JR磐越西線においては、喜多方市の濁川橋りょうの一部が河川の増水により倒壊し、8月4日から野沢駅―喜多方駅間が運休となっていました。なお、10日からは同区間でバスによる代行輸送が実施されています。

また、町民バスも、安全な運行を確保するために、道路状況に応じて迂回運行を実施するなど、町民の皆さんの生活に大きな影響が出ました。

町内の被害状況

災害対応

町では、8月3日午後2時10分に大雨警報が発表されたのと同時に警戒配備体制を設けて警戒にあたりました。その後は、翌4日午前7時に災害対策本部を設置し、警察や消防など関係機関と連携しながら、町内の被害状況の把握を実施しました。

また、簡易水道の破損により断水などが発生した奥川地区の12自治区189世帯には、4日と5日に飲料水を配給したほか、一部には給水タンクを設置しました。

同じく5日の昼頃には、県消防防災ヘリコプターにより、道路が流されて孤立してしまつた弥生自治区の住民の救助と弥生自治区への食料などの物資輸送を行いました。なお、道路の応急復旧により弥生自治区の孤立は5日の夕方に解消しました。

今後は、被災した土木施設や農地・農業施設の復旧、町罹災救助金の交付など継続した対応を行っていきます。



1. 大量の土砂が流入して全壊した家屋（弥生地内）
2. 奥川の増水により水衝部の護岸が流失（極入地内）
3. 泥や流木などが打ち上げられた水田（塩地内）
4. 奥川の増水により道路や田畑が冠水（向原地内）
5. 路盤が流されてしまった県道383号熱塩加納山都西会津線（極入―弥平四郎間）
6. 道路の一部が崩落した県道383号熱塩加納山都西会津線を視察する関係者（小屋地内）

※掲載した写真は8月4日から8日にかけて撮影したものです。

※国・県管理分を除く。	
◆建物被害	【8月9日現在】
住宅全壊	1棟
住宅半壊	1棟
住宅床上浸水	1棟
住宅床下浸水	14棟
小屋などの浸水	8棟
◆道路被害	【8月15日現在】
町道（路肩決壊など）	21カ所
林道（土砂崩れなど）	12カ所
◆河川等被害	【8月15日現在】
流木詰まり、洗堀など	10カ所
◆農地被害	【8月8日現在】
冠水・土砂堆積面積	7.5ha
法面などの崩落・浸食	20カ所